

専門用語や難語で語り、書き表すことが、人の知性や社会的地位を象徴するかのような風潮がある。教室でも、こんな言葉も知らないのかと、聞き手である児童生徒を軽んじる場面がなくもない。副題にもあるように、本書では多文化共生社会実現のために、移民等外国にルーツを持つ人々に対する日本語環境の今、課題を追究している。そして同時に、言語の観点から、障害のある人などのマイノリティー（少数者）、さらに、日本語母語話者についての課題にも、「ことば」の問題を通して踏み込んでいる。マイノリティーにとって、漢字の理解は困難な壁の一つになるが、これは子どもたちにとっても同様である。言うまでもなく、「壁」を乗り越える学習も重要である。一方で、すべての人が対応を迫られる非常震災等の緊急時に接する放送や掲示を含め、誰にとっても分かやすい

表現も、きわめて重要である。本書には表現の置き換え例等も示されており、なるほどとうなずかされる。ほかにも多くの例示があり、やさしい日本語の大切さを再認識させられる。漢字の問題も含め、あらゆる生活場面学習活動面で「日本語から日本語への翻訳」という発想が重要だろう。『やさしい日本語』のやさしいは、易しいだけではなく、優しいでもあるということを確認したい。語彙の置き換えだけでなく、短く明確な表現など、子どもたちを前に配慮したいポイントはいくつもある。

やさしい日本語
多文化共生社会へ



庵功雄 著
907円 岩波新書
☎03-5210-4000

著者は「お互いさま」という気持ち大切にしている日本語教育・日本語学専攻の一橋大学国際教育センター教授である。
(元川崎市立中学校長・青木幸夫)

著者は「お互いさま」という気持ち大切にしている日本語教育・日本語学専攻の一橋大学国際教育センター教授である。

効果的に使用されている。本書は、ロシア語の通訳者である著者が世界中の「諺」について、諺の発祥と意味、言語的背景等について詳細な例を挙げて説明している。例えば、「火事場泥棒」においては、「目病みに唐辛子の粉（朝鮮半島）」、「不幸は単独では来ない（イギリス）」、「木から落ちて牛に突かれる（スリランカ）」、「虎を防いで狼に逢う（アフガニスタン）」等、世界中から弱肉強食の理を説く諺を列挙している。そして、「インドネシアのスマトラ沖の地震による大津波の被害について、破壊された家屋の大半は貧しい人々のあばら屋のような木造家屋であり、ここに住んでいた人々のほとんどが居住、家財はおろか命を落としている。一方で、コンクリート

人間の経験と知恵とが重なりあつて生み出された「諺」は、私達の日常生活や社会生活に深く関わり、様々な場面において効果的に使用されている。本書は、ロシア語の通訳者である著者が世界中の「諺」について、諺の発祥と意味、言語的背景等について詳細な例を挙げて説明している。例えば、「火事場泥棒」においては、「目病みに唐辛子の粉（朝鮮半島）」、「不幸は単独では来ない（イギリス）」、「木から落ちて牛に突かれる（スリランカ）」、「虎を防いで狼に逢う（アフガニスタン）」等、世界中から弱肉強食の理を説く諺を列挙している。そして、「インドネシアのスマトラ沖の地震による大津波の被害について、破壊された家屋の大半は貧しい人々のあばら屋のような木造家屋であり、ここに住んでいた人々のほとんどが居住、家財はおろか命を落としている。一方で、コンクリート



この様に、「諺」が現代社会のどういった場面で使用することが、グローバル社会に生きる日本人としては相応しいのかを、著者独自の論理で展開している点が単なる「諺辞典」等とは異なっていて読み応えがある。
(愛知教育大学教授・高橋美由紀)

他諺の空似
ことわざの人類学



米原万里 著
734円 中公文庫
☎0120-29-9625

製の頑丈な建物は、津波にも押し流されることなく、そこに居住するか宿泊していた金持ちの人々は、外出でもしていない限り生き延びた。というように、貧者、弱者に最も残酷な形で降りかかったことを語っている。さらに、「国民一人当たりの総所得の統計から、最も被害のひどかったインドネシアの国民一人当たりの所得は、そこで一部国民がバカンスを楽しんでいた金持ち国、日本の約50分の1。どんなに科学技術が発達しようとも、この巨大な落差がある限り、天災は貧弱者の命を大量に奪い続けることだろう。」津波に

世界最高の知識、経験を蓄積している日本は今こそ独自の力量を発揮して「略」と読者に訴える。

関して、おそらく世界最高の知識、経験を蓄積している日本は今こそ独自の力量を発揮して「略」と読者に訴える。